

2020年度 第2四半期決算説明会

2020年11月6日（金）

代表取締役社長CEO

加藤 照和

本日の内容

1. 2020年度 第2四半期決算の概要
2. 中国事業アップデート
3. 2020年度 業績予想・配当予想

■ 本日はご覧の3点について、説明させていただきます。

1. 2020年度 第2四半期決算の概要

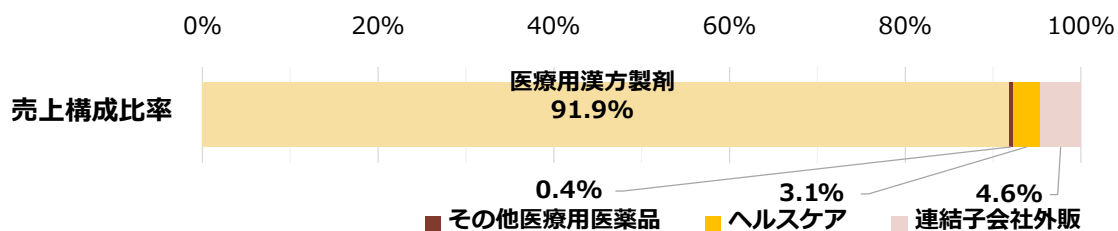
- まずはじめに、2020年度 第2四半期決算の概要についてです。

2020年度 第2四半期決算の概要



(百万円)

	2020年度 2Q計画	2020年度 2Q実績	達成率	2019年度 2Q実績	前年同期比		2020年度 通期計画
					金額	伸長率	
売上高	64,200	63,994	99.7%	60,802	3,191	5.2%	132,000
営業利益 (営業利益率)	9,100 (14.2%)	11,124 (17.4%)	122.2%	9,776 (16.1%)	1,348	13.8%	17,000 (12.9%)
経常利益	9,400	11,114	118.2%	9,856	1,257	12.8%	17,900
親会社株主に帰属する 四半期純利益	6,800	8,083	118.9%	7,073	1,045	14.9%	13,000



3

- 第2Q決算はご覧の通り、COVID-19の影響を受けたものの売上高は639億円で計画に対して若干未達、営業利益・経常利益はともに111億円、四半期純利益は80億円といずれも計画に対して過達でありました。
- 営業利益率は計画14.2%に対して17.4%、前年同期比で1.3pt増でありました。
- 前年同期比では、増収増益であります。
- 売上構成比率のグラフで、連結子会社外販比率4.6%のうち、中国連結子会社の外部販売比率は3.8%でありました。

前年同期比は、増収増益の決算 計画比では、売上高は未達もすべての利益計画を達成

売上高 **63,994 百万円** 計画達成率 **99.7%** 前年同期比 **+5.2%**

- 中国子会社の新規連結により、前年同期比 5.2%伸長
- 医療用漢方製剤129処方の売上高は、前年同期比 1.1%伸長
- 一般用漢方製剤などのヘルスケア売上高は、前年同期比 25.2%伸長

営業利益 **11,124 百万円** 計画達成率 **122.2%** 前年同期比 **+13.8%**

営業利益率 **17.4%** 前年同期比 **+1.3pt**

- 売上原価率は、薬価改定による上昇分を生薬関連コストで吸収したものの、中国外販事業の影響により、前年同期比+0.7ptで41.6%
- 販管費率は、COVID-19の影響に伴う活動の制限による経費の未消化等で前年同期比△1.9ptで41.1%。計画に対しては、研究実施の遅れおよび経費の未消化により△3.0pt

経常利益 **11,114 百万円** 計画達成率 **118.2%** 前年同期比 **+12.8%**

親会社株主に帰属する

四半期純利益 **8,083 百万円** 計画達成率 **118.9%** 前年同期比 **+14.9%**

4

- 決算のポイントとしましては、売上高は前年同期比31億円増の5.2%伸長でしたが、3月にグループ連結となった天津盛実百草の外販売上22億円が寄与しています。
- 医療用漢方製剤129処方の売上高は、昨年10月、本年4月と2回の薬価改定の影響と、受診抑制や訪問制限の影響を受け、前年同期比1.1%伸長でありました。
- 一般用漢方製剤などのヘルスケアの売上高は、店舗販売もネット販売も好調で、前年同期比25.2%伸長でありました。
- 売上原価率は41.6%と計画比で0.1pt低く、前年同期比で0.7pt高くなりました。前年同期比では、薬価改定の影響を生薬関連コスト低減で吸収したものの、中国外販事業の影響により原価率が上昇しました。
- 販管費率は41.1%と計画比で3.0pt低下し、前年同期比でも1.9pt低下しました。COVID-19の影響に伴う活動制限による経費の未消化が主な原因であり、計画比では研究実施の遅れも影響しています。

育薬処方・Growing処方 売上高



	売上 順位	製品No./処方名	2019年度 2Q	2020年度 2Q	前年同期比		(百万円)	
育薬 処方	1	100	大建中湯	5,262	5,237	△ 25	△0.5%	数量では すべて プラス 成長
	3	54	抑肝散	3,953	3,978	25	0.6%	
	4	43	六君子湯	3,719	3,774	55	1.5%	
	8	107	牛車腎気丸	1,831	1,808	△ 22	△1.3%	
	24	14	半夏瀉心湯	717	711	△ 6	△0.9%	
育薬処方合計			15,484	15,509	25	0.2%		
Growing 処方	2	41	補中益気湯	3,670	3,979	308	8.4%	
	5	68	芍薬甘草湯	2,724	2,595	△ 129	△4.8%	
	10	29	麦門冬湯	2,210	1,648	△ 562	△25.4%	
	7	24	加味逍遙散	2,348	2,415	67	2.9%	
	6	17	五苓散	2,318	2,527	208	9.0%	
Growing処方合計			13,273	13,165	△ 107	△0.8%		
育薬・Growing処方以外の119処方合計			29,384	30,104	719	2.5%		
医療用漢方製剤129処方合計			58,141	58,779	638	1.1%		

- 薬価改定の影響を受け、医療用漢方製剤129処方合計の売上高は587億円で前年同期比+6億円、1.1%伸長でありました。
- 育薬5処方の売上高は155億円で前年同期比0.2%伸長でしたが、数量ベースでは1.3%伸長であり、金額がマイナス伸長の大建中湯も牛車腎気丸もそれぞれ0.1%伸長と、育薬5処方すべて数量ベースではプラス伸長でありました。
- Growing 5処方の売上高は131億円で前年同期比0.8%減少しました。COVID-19感染対策としてのマスク・手洗いなどにより、インフルエンザや風邪の流行が抑えられたため、風邪関連処方の麦門冬湯が前年同期比で大きく減少しました。

■ COVID-19の影響はありつつも、売上高は回復傾向

(薬価ベース)

医療用医薬品市場 Δ **3.8%**
 ツムラ **+1.3%**
 (前年同期比)

市場との差 **5.1pt**

Copyright © 2020 IQVIA. 「JPM 2020年4-9 月」
 をもとに当社が独自に集計 無断転載禁止

■ 一般診療所における訪問活動は徐々に再開しているが、 病院の訪問・活動規制は継続している

(実売・金額ベース)

売上トレンド

一般診療所 **+1.1%**
 (売上構成比：76%) (前年同期比)

耳鼻咽喉科の回復が遅れるも、
 皮膚科・精神科でプラス

病院 Δ **3.0%**
 (売上構成比：24%) (前年同期比)

訪問・活動制限の影響が大きい
 手術数の減少・外来中止など

6

- 4-6月期にCOVID-19の影響を大きく受けたものの、現時点においては医療用医薬品市場は回復傾向にあります。薬価・実売ベースでの数字ですが、前年同期比伸長率は医療用医薬品市場 Δ 3.8%に対して、当社が+1.3%と市場との差が5.1ptでありました。
- 市場販路別に見ますと、一般診療所（GP）が+1.1%であり耳鼻咽喉科や産婦人科の回復が遅れています。病院（HP）は Δ 3.0%と、依然として訪問・活動制限を受けており、また手術数の減少や外来中止などの影響が続いております。
- また、高齢者の受診抑制も続いており、芍薬甘草湯のマイナスなどはこの影響であると分析しています。

漢方薬の症状緩和に対する期待の高まり（医師・患者様）

前年同期比
()は数量ベース

倦怠感 補中益気湯+8.4% (+10.5%)
人參養榮湯+2.9% (+3.2%)

COVID-19治癒後も倦怠感が取れない
と訴える患者様が多い

発熱 葛根湯+12.2% (+13.4%)
麻黄湯+15.4% (+15.4%)

発熱症状を緩和させるのに漢方薬は使いやすい

食欲低下 六君子湯+1.5% (+3.1%)
補中益気湯+8.4% (+10.5%)

外部環境の変化によって疲労感・食欲低下を訴え
体力の低下が懸念される患者様に処方している

不安感 半夏厚朴湯+16.7% (+17.1%)
加味帰脾湯+2.5% (+3.8%)

外部環境の変化に伴って不安感を訴える
患者様の増加



不眠 抑肝散加陳皮半夏+7.4% (+8.8%)
加味帰脾湯+2.5% (+3.8%)

高齢者の中で感染に対する不安などから
睡眠障害になっている患者様が多い

肥満症 防風通聖散+9.7% (+10.9%)

自宅待機や自粛が多くなっており、
肥満が気になっている患者様も多い

にきび 十味敗毒湯+9.8% (+11.3%)
清上防風湯+26.6% (+28.6%)

感染防止のためにマスクを装着している患者様が多く、
にきびの相談が顕著に増えている

当社調べ

7

- 次に、COVID-19関連症状に対する漢方治療の事例について、当社で調べました医師及び患者様の症状緩和への期待の高まりについて紹介させていただきます。
- 感染初期症状である発熱、治癒後に残る倦怠感、感染予防に伴う不安感、不眠、食欲低下や運動不足による肥満症、マスク着用に伴うにきびなど、ご覧のような漢方処方が用いられ、それぞれ伸長していると分析しています。

10月7日 日本東洋医学会による記者会見

漢方治療に関する研究

- 1) 後向き症例登録COVID-19感染者への投薬実態調査
(東北大学：高山 真先生)
- 2) 前向き介入COVID-19感染者への治療効果
(東北大学：高山 真先生)
- 3) 前向き介入COVID-19の健常者の予防効果
(千葉大学：並木 隆雄先生)

10月9日

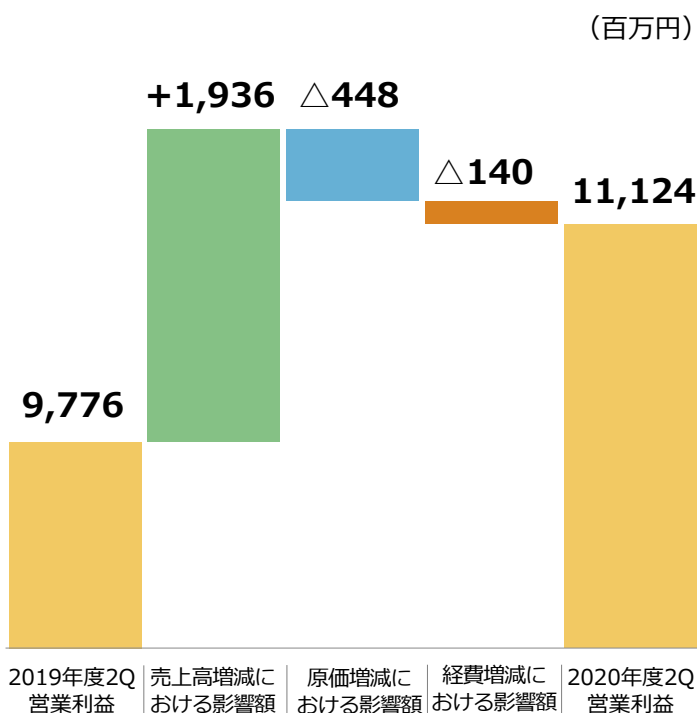
薬事日報HP

並木 隆雄先生 (千葉大学) 高山 真先生 (東北大学) 他
千葉大、東北大などを中心に医療者計6000人を対象に
COVID-19発病予防への漢方薬の効果を確かめる大規模
な臨床研究を開始する

8

- また、COVID-19漢方治療に関する研究について、10月7日、日本東洋医学会より新たな情報発信がありました。
- ご覧のとおり、すでに行われている漢方治療の投薬実態の調査、具体的な処方名は公表されておりませんが、漢方治療の治療効果研究を東北大学で、健常者への予防効果研究を千葉大学で実施するという内容です。

営業利益の増減要因（前年同期比較）



(百万円)

売上原価増減影響額 内訳	
販売単価・構成	△448
生薬コスト低減	+768
製造原価低減	+255
中国外部販売増	△1,023

経費増減影響額 内訳	
販売関連費用	△245
研究開発費	△138
旅費交通費	+510
その他	△267

- 営業利益は前年同期比13億円増の111億円ですが、売上増加による影響が+19億円、売上原価増加による影響が△4億円、経費増加による影響が△1億円です。
- 売上原価4億円の増加は、薬価改定による販売単価や販売構成による影響の増加分を生薬コスト低減と製造原価低減で吸収したものの、新たな中国子会社外部販売が影響しています。
- 経費1億円の増加は、中国事業など売上増加にともなう販売関連費用増とCOVID-19関連を含む研究費等の増加に対して、活動制限による旅費交通費等の未消化で、微増となっています。

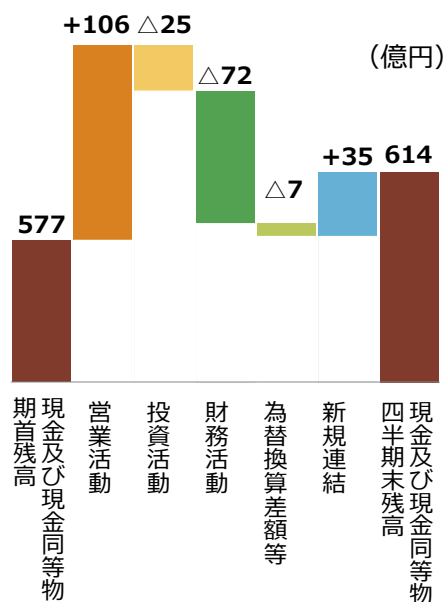
財務状態およびキャッシュ・フロー



(百万円)

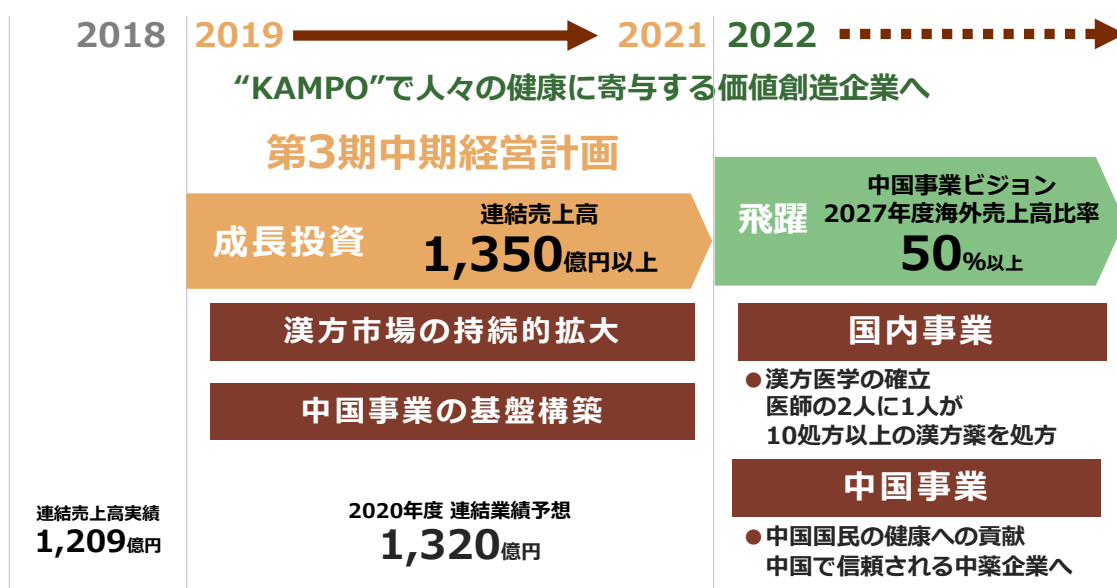
	2019年度 (2020.3)	2020年度 2Q	増減額
資産合計	311,042	308,415	△2,626
流動資産	194,288	195,073	784
固定資産	116,753	113,341	△3,411
負債合計	97,993	84,490	△13,502
流動負債	48,476	44,495	△3,981
固定負債	49,516	39,995	△9,251
純資産合計	213,048	223,924	10,875
自己資本比率	66.0%	68.0%	2.0pt

	2019年度 (2020.3)	2020年度 2Q	増減額
たな卸資産計	73,310	72,989	△321
商品及び製品	10,338	10,874	536
仕掛品	12,418	13,916	1,497
原材料及び貯蔵品	50,553	48,197	△2,355



10

- 財務状態およびキャッシュ・フローは前期末・2020年3月末との比較でご覧の通りです。ポイントのみご説明いたします。
- 流動資産のうち棚卸資産は3億円減少。内訳は、原材料及び貯蔵品が23億円減少、製品5億円増、仕掛品15億円増です。仕掛品増は6月竣工の茨城第3SD棟の影響です。
- 固定資産は34億円減少していますが、当期より津村盛実製薬有限公司を新規連結したこと等に伴う有形固定資産の増加が52億円、一方、同子会社出資金・貸付金の連結消去等に伴う投資その他の資産の減少が81億円、天津盛実百草グループ持分取得によるのれん償却等に伴う無形固定資産の減少が5億円です。
- 負債合計は、中国連結子会社の短期借入金返済、ツムラの長期借入金から1年内返済予定長期借入金振替による固定・流動間の移動によるものです。
- 自己資本比率は68.0%であります。
- キャッシュ・フローにつきましては、ご覧の通りです。



- 戦略課題**
1. 漢方市場の持続的拡大とプレゼンスの確立
 2. 中国における成長投資と事業基盤の構築
 3. 新技術を活用した生産性の向上
- AI、ロボット化、RPA -
 4. 理念経営による企業文化の醸成と多様な人財の開発
 5. 漢方バリューチェーンを通じたSDGsの推進

11

- 続いて、長期経営ビジョン実現へのロードマップに基づき、第3期中期経営計画の着地点と戦略課題の進捗について説明いたします。
- 第3期中期経営計画2021年度の連結売上高1,350億円以上を目指しておりますが、今期2020年度連結業績予想は1,320億円です。COVID-19の影響で活動の遅れはありますが、達成に向けて鋭意努力してまいります。
- 戦略課題1と2は後ほど説明いたします。
- 戦略課題3については、漢方製剤製造全工程において自動化・ロボット技術が完成しました。他の製薬製造にはない、原料生薬から原薬であるエキス末までの自動化は世界初の試みであろうと思います。さらにサプライチェーンでの自動化・省人化を目指します。
- 戦略課題4については、私が学長を務めます社内人財養成機関ツムラアカデミーにおいて、素晴らしい外部講師のご指導により、コロナ禍在宅勤務においてもWeb環境で継続実施し、成果があがっております。
- 戦略課題5については、当社HPに掲載しております、統合報告書2020にて、詳しくご報告させていただいております。また、皆さまには追って統合報告書2020をお送りいたします。

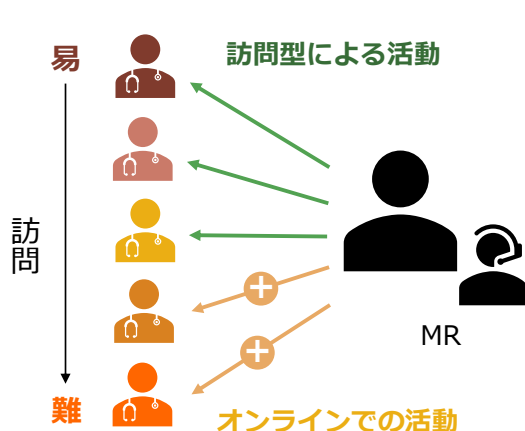
- 高齢者関連領域、がん領域（支持療法）、女性関連領域を重点3領域と位置付け、集中的に活動する
- 育薬処方、Growing処方、重点3領域の関連処方による営業アプローチを展開する

高齢者関連領域		がん領域 (支持療法)	女性関連領域
精神・神経疾患	消化器疾患	副作用の軽減など	婦人科疾患
育 抑肝散 + 関連処方	育 六君子湯 育 大建中湯 G 補中益気湯 + 関連処方	育 六君子湯 育 半夏瀉心湯 育 牛車腎気丸 + 関連処方	G 加味逍遙散 + 関連処方
呼吸器疾患			その他の疾患・症状など
G 麦門冬湯 + 関連処方			育 大建中湯 G 五苓散 + 関連処方
循環器疾患における周辺症状			
G 五苓散 + 関連処方			

● 育薬処方 ● Growing処方

- 戦略課題1の漢方市場の持続的拡大とプレゼンスの確立については、ご覧の通り、重点3領域である「高齢者関連領域」「がん領域・支持療法」「女性関連領域」において、育薬処方・Growing処方を中心に継続的に活動し、一貫して事業戦略である「漢方医学の確立」を目指して市場拡大を図っております。
- 高齢者領域では、認知症関連やフレイル関連を重点施策に継続的に取り組んでいることに加え、これまで弱点であった「循環器領域」を新たにターゲットに組み入れ、同領域における漢方市場を拡大してまいります。
- がん領域・支持療法においては、各種抗がん剤の副作用、例えば、食欲不振、しびれ・痛み、下痢・便秘、口内炎、倦怠感・疲労などの症状の緩和に7～10処方程度が推奨されており、抗がん剤治療継続などに寄与しています。
- 女性関連領域においては、婦人科疾患において加味逍遙散の基礎・臨床エビデンスの集積を行っており、さらに新たな臨床研究を行っております。その他の疾患・症状では、腹部の膨満感や頭痛・めまいなど女性に多い疾患・症状へ展開しています。

医療関係者からの要請に応じて
訪問型とオンラインでの活動を使い分ける



訪問型	MRによる訪問面談 (院内説明会・情報提供)
訪問型	会場実施型の講演会・研究会 (実技 ^{※1} を含む漢方医学、エビデンス)
オンライン	リモートによる情報提供 (説明会・デジタルパンフレット)
オンライン	Web講演会・研究会 (漢方医学、エビデンス)
オンライン	会員向けホームページ (動画コンテンツ、CMEデジタル ^{※2})

※1実技：漢方診療に用いられる腹診、舌診、脈診など

※2CMEデジタル：医師をはじめとした医療従事者の漢方医学に関する生涯教育 (Continuing Medical Education)

- COVID-19の影響により、これまでのMRによる訪問活動だけでなく、オンラインによる情報提供の在り方について、将来を見据えて大きな変革が必要であると考
え取り組んでいます。
- 漢方医学と漢方製剤の情報提供という特徴に鑑み、医師のニーズに応じて訪問型
の個別面談や講演会・研究会を実施するケースに加えて、オンラインによる情報
提供活動やWeb講演会・研究会、医師向けホームページでの動画コンテンツの提
供、漢方医学継続教育デジタルコンテンツの提供など、「必要な情報を必要なと
きに必要な方法」でご提供する体制を継続的に構築しています。
- 大勢の医師がオンラインでのWeb講演会等にご参加いただき、漢方に興味をお持ち
である、あるいは既に処方いただいていたという新たな医師との出会いもあり、
オンライン活動の効用について検証し、将来に向けた投資を行ってまいります。

【ターゲット】主に10処方未満の処方医師と全く処方していない医師

テーマ	主な処方名	講演者	視聴者数
漢方を分かりやすく理解するかせ、めまい、ストレスを中心に	麻黄附子細辛湯 苓桂朮甘湯	千福 貞博 先生 センブククリニック	23,917名
急性発熱性疾患への漢方対応とその応用 今、感冒をどう診るか	麻黄湯 柴胡桂枝乾姜湯	高山 真 先生 東北大学	19,639名
外部環境の変化（夏季・ストレス）に対応する漢方薬	清暑益気湯 補中益気湯	大野 修嗣 先生 大野クリニック	20,306名
ガイドラインから読み解く漢方治療のエビデンス～機能性消化管疾患を中心に	六君子湯 大建中湯	眞部 紀明 先生 川崎医科大学	20,729名

(前年同期比)

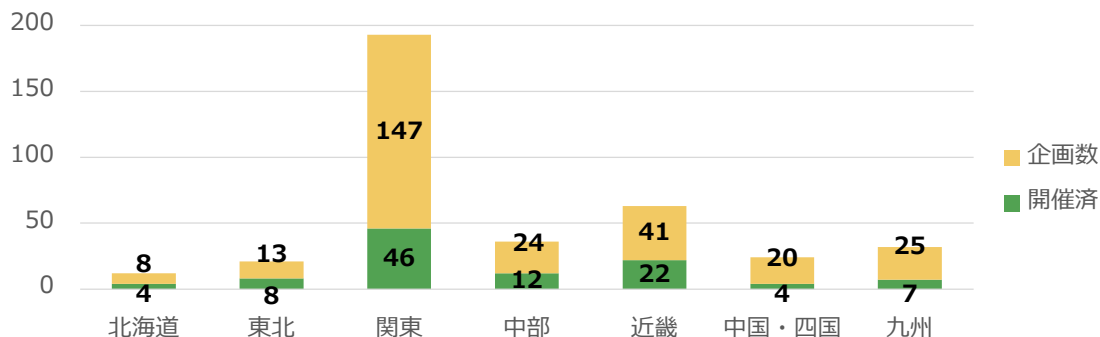
処方名		処方名	
麻黄湯	+15.4%	大建中湯	△0.5%
補中益気湯	+8.4%	麻黄附子細辛湯	△8.6%
苓桂朮甘湯	+7.6%		
清暑益気湯	+6.6%		
柴胡桂枝乾姜湯	+1.6%		
六君子湯	+1.5%		

14

- オンラインによるMega Web講演会は、主に10処方未満の処方医師と全く処方していない医師を対象に上期4回実施し、毎回2万名前後という多くの先生にご視聴いただくことができました。
- MRによるフォロー活動を組み合わせ、ご覧のように、すでに処方伸長に結びついているものもあります。
- Mega Web講演会と訪問型・オンライン型の面談を組み合わせることにより、これまで以上に広範囲を対象として情報提供ができる可能性があり、漢方を処方する医師の増加、処方数の増加に繋がられるものと確信しております。

エリア企画 地域特性・施設特徴を考慮した、きめ細かい情報提供
漢方を学びたい医師向け「漢方医学入門セミナー」

【エリアWeb講演会】企画・開催予定：278回 開催済：103回



□開催事例：高齢化率の高い地域では、「高齢者のフレイル※対策」で実施し、食欲不振、排尿障害など複数の症状に対応できる漢方薬を紹介。
視聴数：最大180名（近畿エリア）

※フレイルとは加齢に伴う様々な機能変化や予備能力低下によって健康障害に対する脆弱性が増加した状態（出所：日本老年医学会） 15

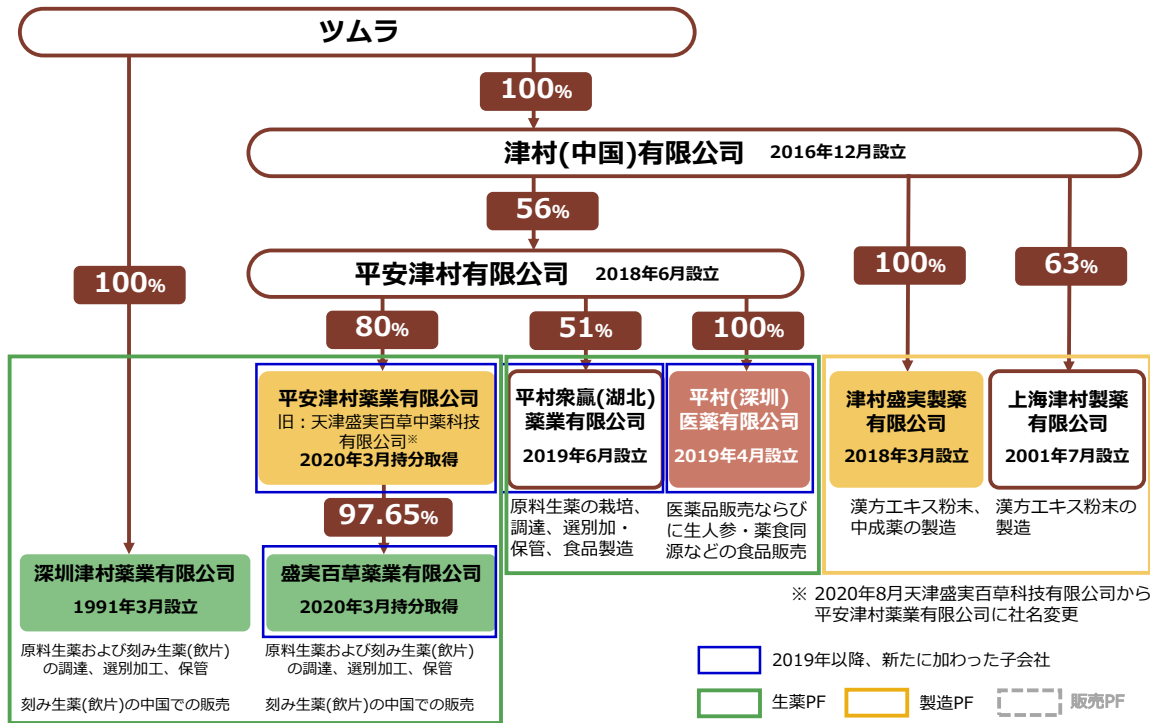
- オンラインによるエリアWeb講演会は、ご覧のグラフのとおり、これまでに103回開催しております。
- 近畿エリアでは「高齢者のフレイル対策」をテーマに実施し、180名の医師にご視聴いただくなど、地域ごとのニーズに合わせた企画を実施しております。
- オンラインではなく実地に漢方を学びたいというニーズもあり、エリア企画として「漢方医学入門セミナー」も継続実施しております。

2. 中国事業アップデート

- 続いて、戦略課題2・中国における成長投資と事業基盤の構築である中国事業アップデートについてご説明いたします。

中国事業体制と資本関係 出資比率

2020年9月時点

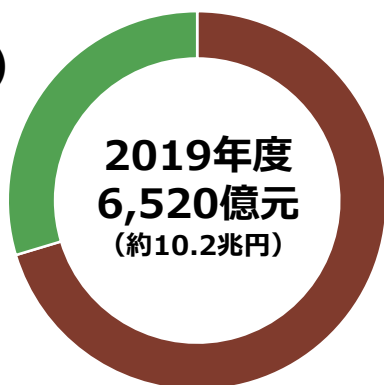


17

- 最初に、中国事業体制と資本関係についてアップデートいたします。
- 右から2つ目、2018年3月設立の津村盛実製薬有限公司は、2022年に生産工場が竣工予定であります。今期より連結子会社となりました。上海津村製薬とともに中国における製造PFの中核機能を担っていきます。
- その左隣り、2019年4月設立の平村(深圳)医薬有限公司は、現状、生薬PFにおける薬食同源などの食品の販売機能、さらに左隣り、2019年6月設立の平村衆贏(しゅうえい)(湖北)薬業有限公司は、原料生薬の栽培・調達、選別加工・保管に加え、薬食同源などの食品製造の機能を担っています。
- さらに左隣り、今年3月に持分取得し連結子会社となった天津盛実百草科技有限公司は、今年8月に平安津村薬業有限公司へ社名変更し、その子会社である盛実百草薬業有限公司ならびに深圳津村薬業有限公司が生薬PFの中核機能を担っています。原料生薬の栽培・調達、選別加工・保管に加え、生薬原料や飲片(刻み生薬)などの販売も行っています。
- 中成薬事業における販売PF機能を今後M&Aなどで構築してまいります。

■ 中成薬 ■ 刻み生薬（飲片）

1,933億元
(約3.0兆円)



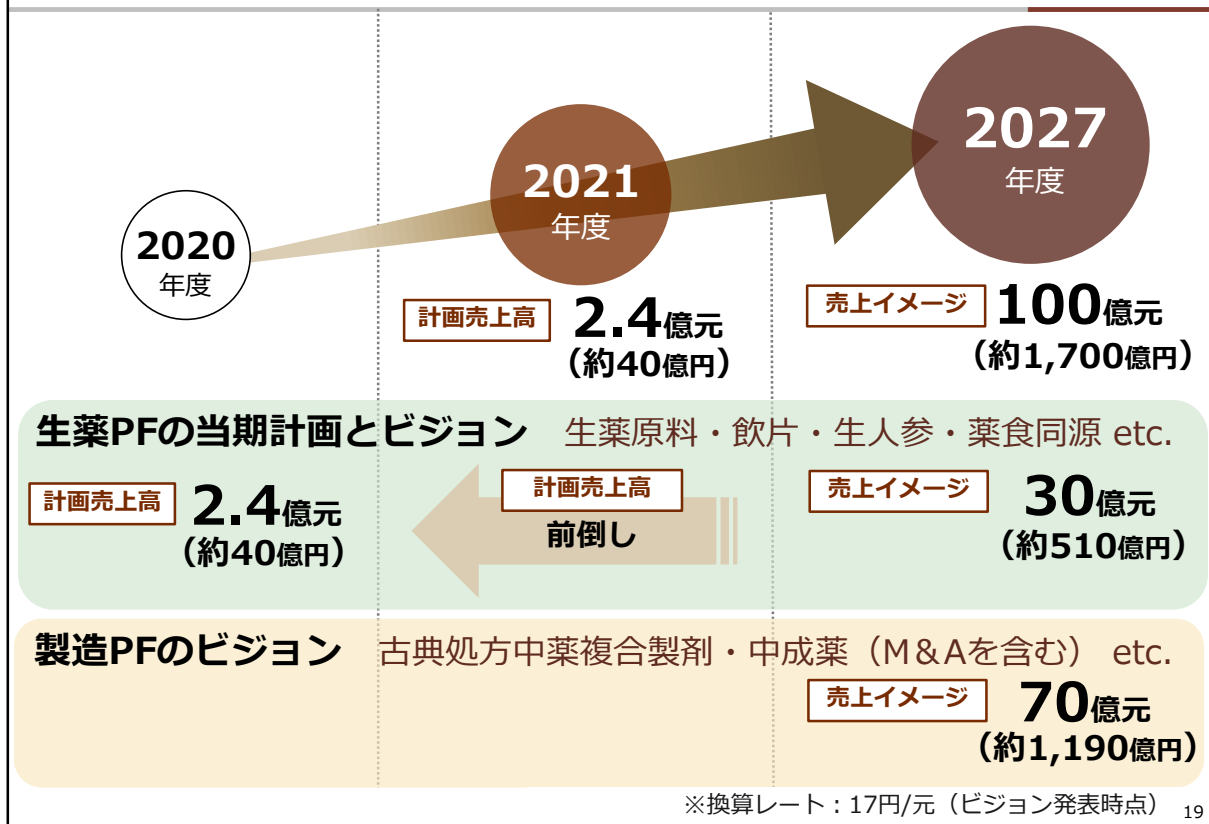
4,587億元
(約7.2兆円)

※換算レート：15.7円/元（2019年12月末時点）

出所：中国国家统计局、工業和信息化部

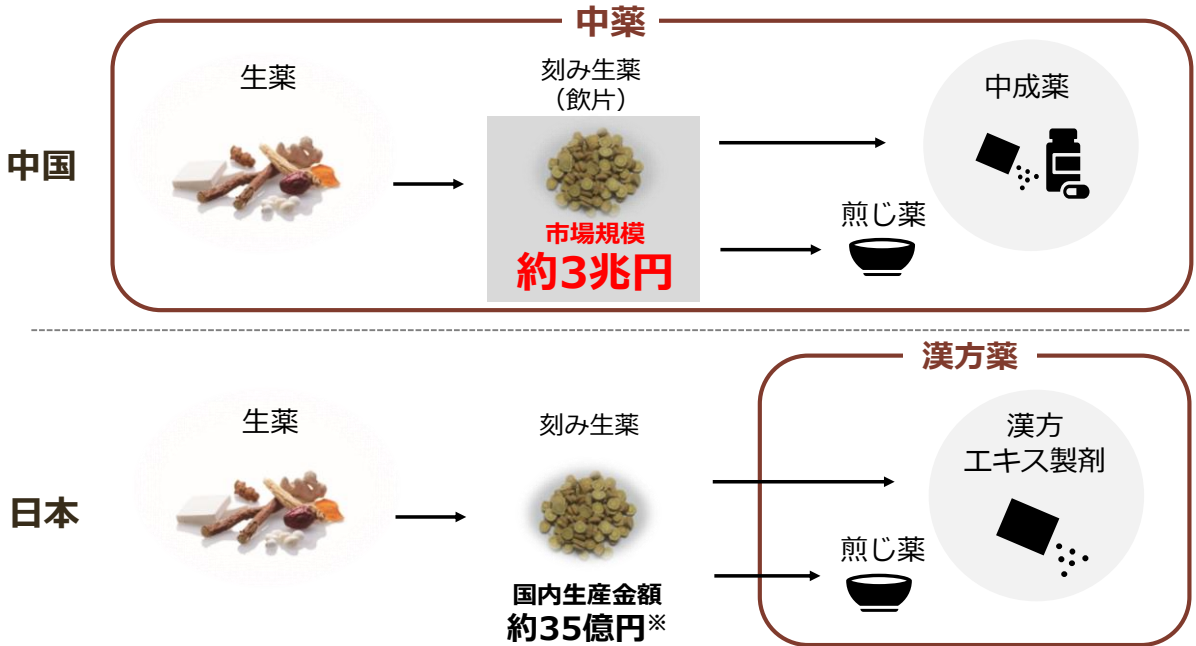
18

- 最新の中国国家统计局のデータによりますと、2019年度中国における中薬市場規模は6,520億元（約10.2兆円）で、内、中成薬が4,587億元（約7.2兆円）、飲片（刻み生薬）が1,933億元（約3兆円）です。



- 中国事業ビジョンについて、アップデートさせていただきます。
- 平安津村薬業とその子会社である盛実百草薬業ならびに深圳津村薬業の総経理に就任した李剛氏が中心となり、中国事業のうち、生薬PF機能としての事業ビジョンを策定しております。原料生薬の栽培・調達・加工選別・品質管理・保管の機能に加えて、生薬原料・飲片（刻み生薬）・生人参等の販売により、2027年度の売上イメージとして30億元（約510億円）を目指してまいります。
- 第3期中期経営計画においては、深圳津村薬業ならびに平村（深圳）医薬における生薬原料・飲片（刻み生薬）、生人参・薬食同源などの食品の販売により、2021年2.4億元（約40億円）の販売計画を立てておりましたが、本年3月の天津盛実百草グループの持分取得により、今期へ前倒しの計画としております。COVID-19の影響があり進捗に遅延はありますが、計画達成へ挽回してまいります。
- 製造PFについては、今後、中成薬企業のM&Aや古典処方中薬複合製剤等の製造・販売機能を確立し、2027年度の売上イメージとして70億元（約1,190億円）を目指してまいります。中国政府当局の方針・政策動向や中成薬企業のM&Aなどの進捗に応じて、あらためて事業ごとにビジョンを策定してまいります。

中国における刻み生薬（飲片）

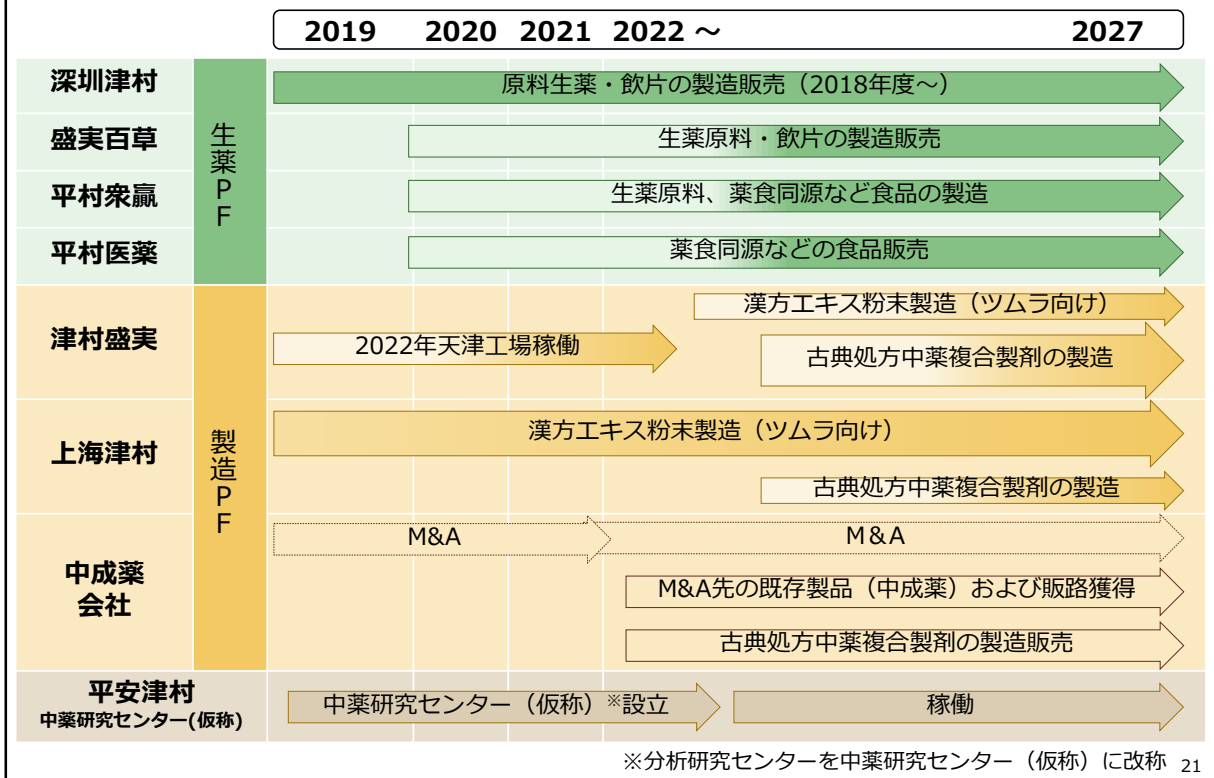


用語	意味	漢方医学において対応する語 (必ずしも「同義」ではない)
中薬	中医学で使用する薬剤（中成薬、飲片など）	漢方薬、刻み生薬、生薬
飲片	刻み生薬と同義。煎じて服用する	刻み生薬
中成薬	中医学の理論に基づいた処方、顆粒や丸剤等の形にした薬剤	漢方エキス製剤

※出所：日本漢方生薬製剤協会「漢方製剤等の生産動態」

- 生薬PFにおける販売の中心は、中国で約 3 兆円の市場規模である飲片（刻み生薬）です。日本では中国の1,000分の 1 程度の市場規模しかありません。
- 日本は明治維新とともに医政発布で西洋医学による医師ライセンスのみという制度となり漢方医学が衰退しましたが、中国は中医と西洋医のライセンスが両立した制度を維持しているため、中国伝統医学である中医学に基づいた治療が広く浸透しています。
- 患者さん一人ひとりの症状に合わせ、量の加減がされ、飲片（刻み生薬）による中薬を処方するのが基本とされます。
- 生薬PFにおける飲片（刻み生薬）の販売は、生薬の品質と効果による差別化を図り、新たな規格、信頼される規格の飲片（刻み生薬）を提供することを目指します。ツムラGACPという生薬栽培・加工選別・試験分析の高い品質管理レベルで生産された原料生薬のみから製品化された、高品質規格の飲片（刻み生薬）を病院等で採用いただくことを目指します。
- 生薬PFにおいても、必要に応じてM&Aや業務提携などで、事業規模やエリアの拡大を図り、「信頼される中薬企業」を目指してまいります。

中国事業ビジョンのロードマップ（イメージ）



- 最後に、中国事業における生薬PF、製造PFごとの中国事業ビジョンのロードマップをお示しします。
- 製造PFにおいては、ツムラ向け漢方エキス粉末製造体制の充実を図り、さらに、M&Aにより中成薬事業を先行させ、中国政府の方針・政策動向に合わせて遅滞なく古典処方中薬複合製剤事業を進めていくための基盤構築に向けた投資を行ってまいります。

3. 2020年度 業績予想・配当予想

- 次に、2020年度 業績予想・配当予想についてご説明いたします。

2020年度 業績予想 ～ 修正なし



(百万円)

	2019年度実績	2020年度予想	前期比	
			金額	伸長率
売上高	123,248	132,000	8,751	7.1%
営業利益 (営業利益率)	18,876 (15.3%)	17,000 (12.9%)	△1,876	△9.9%
経常利益	19,649	17,900	△1,749	△8.9%
親会社株主に帰属する 当期純利益	13,765	13,000	△765	△5.6%

	2019年度実績	2020年度予想
配当金 (1株当たり)	64円	64円
EPS	179.96円	169.92円
ROE	6.8%	6.2%

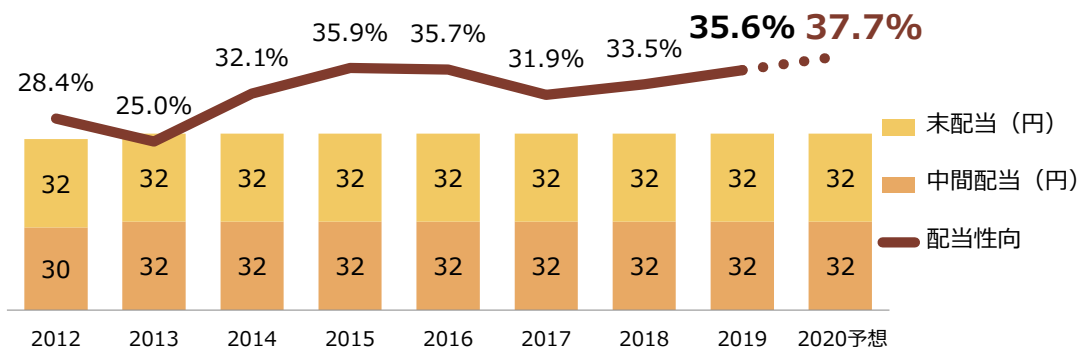
現時点でCOVID-19の収束時期・影響を正確に見通すことが困難なため、業績予想にはCOVID-19の影響を反映しておりません。COVID-19の影響につきましては、第2四半期までに情報提供活動の制限等があり、活動経費を中心とした経費未消化などの影響があります。一方、医療現場において様々な疾患に対する漢方処方が増加しており、また当社としてもe-プロモーション等を活用した活動を推進することにより、計画に与える影響は限定的であると想定しております。今後先行き不透明な状況が続くものと予想されますが、状況に変化が発生した際には適時・適切な開示を実施いたします。

23

- 2020年度 業績予想は、COVID-19の影響を反映しておりませんが、第2四半期決算の状況から、現時点では「修正なし」としております。
- 連結売上高1,320億円、営業利益170億円、経常利益179億円、当期純利益130億円の当初予想通りとさせていただきます。
- COVID-19の収束時期・冬場のさらなる感染拡大の可能性などを正確に見通すことが困難であり、状況に変化が発生した際には適時・適切な開示を実施いたします。

方針

- “漢方”事業の持続的な拡大と中国事業への成長投資および基盤構築を通じて、企業価値の向上を図る
- 中長期の利益水準やキャッシュ・フローの状況等を勘案し、安定配当を実施する



(注) 2020年度期末配当金・配当性向(予想)は、第85回定時株主総会による配当議案決議が前提の予想数値を記載

24

- 最後に、株主還元です。
- 引き続き、“漢方”事業の持続的な拡大と中国事業への成長投資および基盤構築を通じて、企業価値の向上を図ることを基本方針とさせていただき、中長期の利益水準やキャッシュ・フローの状況等を勘案し、安定配当を実施してまいります。
- 中間配当は32円とさせていただき、期末配当予想の32円と合わせて、年間64円の配当を予想しております。配当性向は、先ほどの業績予想ベースで、37.7%を予想しております。

コーポレート・コミュニケーション室

広報グループ

TEL : 03-6361-7100

I R推進グループ

TEL : 03-6361-7101

見通しに関する注意事項

- 本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」を含みます。これら見通しを実現できるかどうかは様々なリスクや不確実性などに左右されます。従って、実際の業績はこれらの見通しと大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。
- 日本ならびにその他各国政府による医療保険制度や薬価等の医療行政に関する規制が変更された場合や、金利・為替の変動により、業績や財政状態に影響を受ける可能性があります。
- 現在発売している主要製品が、万が一製品の欠陥、予期せぬ副作用などの要因により、販売中止となったり、売上が大幅に減少した場合、業績や財政状態に大きな影響を及ぼします。